

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 月 日
- 事業名 : 中核的フードバンクとしての基盤強化を目的とした事業
- 資金分配団体 : 公益財団法人パブリックリソース財団
- 実行団体 : NPO 法人フードバンクネット西埼玉

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況 *
ネットワーク強化(団体数の増加、連携強化)	①ネットワーク団体への支援を行ったか	実施した	2024/3	各地域の任意団体なども含め、 2021年7月～2022年7月まで、 ◆ネットワーク団体へのルート配送（西埼玉の車両で各団体へ食品を配る）実施：週3ルート ◆各団体主催パントリーへの提供回数：167 ◆各団体主催パントリーで食品提供された世帯数：6793世帯 ◆その他、新規立ち上げフードバンクへの倉庫作業研修の実施、地域フードバンクへの規定類や書式の提供、西埼玉のSNSアカウントによる各団体の活動報告・イベント情報の告知、情報共有など	1

	②法人格を取得した小規模フードバンクの数	1 以上	2024/3	2 (フードバンクいるま、フードバンクかわじま)	2
	③提供品取り扱いの合意書を交わした団体数	100%	2024/3	43 団体中 40 団体と締結 (3 団体は登録辞退もしくは連絡つかず)	1
自団体の体制強化 (事務局スタッフ増員、事務局と倉庫の設備強化、組織基盤強化)	①設備改修や運搬専用車両の配置がされたか	した	2022/3	されたこと：運搬専用車両の設置、事務局のエアコン設置、倉庫のロールカーテン設置 していないこと：事務局のトイレ改修 (按分する団体の資金不足のため)	2
	②在庫マッチングシステム利用団体数	30 団体	2024/3	20	4
	③在庫マッチングシステム改修がされたか	した	2022/3	した	2
資金調達	① マンスリーサポーター数	200 人	2024/3	63	3
	② 協賛企業数	10 社	2024/3	2	3
食品調達量の増強	自団体年間取扱量	20 t	2024/3	20 t	1

\* 進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
3.課題がある
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
消毒用アルコール、換気、密の回避

## ③ 広報（※任意）

1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

共同通信社（2022/7/13 各地方新聞へ配信） 東京新聞埼玉版（2022/2/21） NHK 首都圏ニュース（2022/2/18）

2.広報制作物等

企業向けパンフレット、会報7号

3.報告書等

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	すべて	丸茂真依子	フードバンクネット西埼玉 代表
内部	ネットワーク団体関連、事務局	矢部真紀	フードバンクネット西埼玉 事務局長

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
ネットワーク団体	ネットワーク登録団体数	30 団体	2024/3	新型コロナウイルス感染拡大により活動休止をしている団体にも改めて連絡を取り、活動状況を聞き出し、一部は合意書の取り交わしに至った
ネットワーク内フードバンク団体	ネットワーク全体での支援世帯数	10%増	2024/3	事前評価(2020 年度)で約 340 世帯 21 年度は 1019 世帯(狭山ヶ丘倉庫 120、いるま 899)(参考値:かわじま 324 を含めると 1343 世帯) フードバンクいるまがパントリー活動を始めたため、支援世帯数が増加。 フードバンクかわじまについては事前調査で事業開始直後だったためデータがなく、かわじまを含めた支援世帯数は参考値とする。 ここでは各地域フードバンクが直接食糧支援をしている世帯数について扱っている。

事務局	事務局有償職員数	2名以上	2022/3	活動実態に応じて、適宜報酬額などが適切かどうか評価しつつ行っている。
事務局	ネットワーク団体とのミーティング実施回数	年一回	2022/3	実施はできていないが、合意書の取り交わしなどにより以前よりも連絡が密になり、活動日の視察や、活動の広報を西埼玉の SNS で行う取り組みがはじめられた。 また、コロナ禍以降連絡を取っていなかった団体の近況確認などもできた。
スタッフ	スタッフ研修回数	内部2回、外部2回	2024/3	内部1回、外部1回。以前より積極的に機会を設けられるようになった。それにより、スタッフが主体的に団体の今後について考えられるようになり、事業運営についての意見交換が活発になった。
外部団体	啓発広報活動の回数	1回	2024/3	1回開催（二回目も予定あり）。これがきっかけで社内フードドライブ実施に発展した。 また新聞記事掲載によってこれを見た企業から支援の申し出をいただいた。
スタッフ	整備した規定の数	8	2022/3	整備した規定は9。規定に則って判断・実行する風土が育ちつつある
寄付者	寄付収入額	500万	2024/3	2021年度は300万。メディア露出後などに問い合わせが増えるため、活動の認知不足が課題。

未利用食品を持っている人たち	ネットワーク団体年間取扱量	40 t	2024/3	<p>2021年度取り扱い総量は45t（狭山ヶ丘倉庫15t、いるま24t、かわじま6t）。</p> <p>フードバンクいるまが全国フードバンク推進協議会に加盟したため取扱量は増加した。同協議会を通じての寄贈は必ずしも埼玉県内の食品ロスを削減するものではないが、日本国内で発生する未利用食品の有効活用を実現するものである。</p> <p>2021年度の集計には反映されていないが、ネットワーク活動域内で株式会社ファミリーマートと連携し常設フードドライブを新たに設置し（入間市、所沢市、川島町）、家庭からの未利用食品の回収を強化している。</p>
----------------	---------------	------	--------	---



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>寄付金増収についての見通しは不透明だが、その他の短期アウトカムについては現時点で達成しているものもあり、全体として目標値の達成は十分見込めると評価した。</p> <p>ネットワーク団体とのミーティングは交流も兼ねて必要である。それぞれが抱えている課題を共有するなど、活動の連携をとることが大切だと活動を通して実感している。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	活動内容は計画通りに実施されているか	計画通りに実行している	事務局の人員配置、倉庫や配送車両の確保、研修の実施など計画通りに実行されている。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	設定したアウトプット指標の達成状況は計画どおりか	おおむね	マンスリーサポーター、協賛企業に関しては達成状況が遅れているが、その他の指標は計画通りである 設定しているものの、予算の都合で一部設備改修に取り掛かれない課題がある。
組織基盤強化・環境整備	予算が計画通りに適切に執行されているか	されている	多少の予算からの変更は生じているが、ルール通り適切に執行されている

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

ネットワーク登録団体数増については、しばらくやりとりをしていなかった団体をすべて洗い出し、改めて意思確認と合意書の取り交わしを行った結果である。改めて連絡を取ったことで、フードバンクの存在を思い出したり、利用を再開したり、ちょうど新たな活動を始めた団体が新たに登録するなどした。

ネットワーク形成に関して、フードバンクいるまとフードバンクよしみ・かわじまの活動が順調に拡大しており、ネットワーク全体の取扱量および支援世帯数の増加に貢献している。特にフードバンクいるまは全国フードバンク推進協議会に加盟し、大きく取扱量を伸ばした。



### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

ウクライナでの戦争やコロナ禍によって2022年春ごろから物価高となり、フードドライブの寄贈量が少なくなりました。春以降、本団体はフードドライブ拠点を増やし、SNSなどでの広報を積極的に行うなどしたが、改善には至っていない。外的要因ではあるものの、開拓していない食品提供企業なども活動圏内に多数ある状況であるため、安定して食品を集められる体制をつくっていききたい。

地域フードバンクのうち、フードバンクみよしが内部の問題で活動が停滞しており、課題である。中核的フードバンクとして伴走支援に入るため準備をしている。具体的には運営主体と面談し、活動のビジョンを定め、そのためのアクションを整理し地域での活動基盤づくりを改めて行う。



### ④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"><li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li><li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li><li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li></ul> <p>と自己評価する</p>	<p>ボランティアの増員、活動内容の見直し、企業への働きかけなどについて改善の必要があるが、すでにやるべきことなどはある程度見えているので適切に改善できる見込みがある</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

軽作業はすべてボランティアスタッフで行える体制づくり（ボランティアスタッフの増員）、またコストを減らしより多くの食品の取り扱いができるような活動内容の見直し、寄贈食品および寄付金を増やすための企業や市民への呼びかけなど。

何人かの事業者と話をした中で、フードバンク活動の意義は認めるものの、他人事ととらえられている実感があり、諸外国の実態を見ても人間社会の中で無償で行われる食糧支援の必要性は証明されているものの、それを国内の事業者、国民、行政に正しく理解されているかと考えると現時点では疑問が残る。

そもそも【中核的】フードバンクというものの形づくりも手探りな部分があり、活動地域が人口の多い／少ないのかによっても、ふさわしい形態は変わってくるのではないだろうか。

埼玉県では、南西部においてフードバンクネット西埼玉がネットワークを形成しているが、北東部で活動する団体、また県内のフードパントリーネットワーク、子ども食堂ネットワークとは連携はしていない。

また、複数の市町村において活動する中核的フードバンクはその性質上市町村行政からの支援を受けるのが難しく（少なくとも埼玉県では）、一方で県内に唯一のフードバンク団体でもないため県からの支援も受けられない状態となっており、まずは今後、フードパントリーネットワーク、子ども食堂ネットワーク、フードバンク埼玉とも連携し、真に埼玉県の食支援活動をネットワーク化することに取り組みたい。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）



株式会社 KADOKAWA  
さくらまつり参加時



ファミマフードドライブ



所沢友和会の訪問



所沢市長の訪問